

学校教育目標	
「ひびきあい」 ○自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】 ○お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】 ○たくましい心と健やかな体を育てます【体】 ○社会とのかかわりを大切にし、共に生きる態度を育てます【公】 ○さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【関】	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
持続可能な社会の創造に貢献する力	具体化した資質・能力
	他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 協働的なイメージをもつ力 思いや考えを伝え合う力 考えを出し合って新提案する力

中期取組目標
<子ども一人ひとりの思いを大切にしながら> ○多様な人との出会いや学び合いを通して、しなやかに考え挑戦することを楽しむことができるようになります。 ・1年目は意図的に協働的な学びを設定し、他者の考えのよさを受け入れる力を育てます。 ・2年目は他者の考えのよさを受け入れ、よりよい考えを創り出そうとする姿勢を育てます。 ・3年目は多面的、総合的な見方を身につけ、しなやかに考える子どもを育てます。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。 ○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちのために活動しようとする意欲を育みます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業づくり	(1) 児童が互いに学び合ったり、多様な他者と関わったりする「協働的な学び」を意図的に設定する。 (2) 校内授業づくり研究会(国語科)を中心に、相手意識や学習の目的を意識した学びを構築できるように学習の流れを工夫する。 (3) 各教科・領域での学びを通して、一人ひとりがしなやかに考え、自分の考えを広げたり深めたりしながら多様な見方をすることができるよう、自己を振り返りながら友達の考えと比べたり、新しい発想を取り入れたりして、再考する力を育む。
担当	授業づくり部

学力向上に関わる本校の状況
横浜市学力・学習状況調査(令和7年4月実施)の結果について ・学力については、横浜市の平均を上回る学年と、平均並みか、やや下回る学年とがある。 ・学力が横浜市平均より下回る学年は学習に対する意識も低い傾向がある。児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりを意識し、学習意識の向上を目指し、学力の向上につなげていきたい。 ・「課題に取り組んでいる途中に、自分のやり方がうまくいっているか、自分で確かめながら取り組むようにしていますか。」の問いに対して、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は、各学年横浜市平均並みか、やや上回っている。本校が大切にしている「よりよいものにしていくために再考する力を育む授業づくり」をこれからも継続し、自己調整しながら主体的に学習できる力を育んでいきたい。
令和7年度

今年度の目標
校内授業づくり(国語科)を中心に協働的な学びを意図的に設定することで、互いに学び合い、しなやかに自分の考えをもてるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○校内授業づくり研究の講演会や授業実践を積み重ねる中で、国語科における指導事項を明確にし、協働的な学びを効果的に取り入れられる場面について検討を重ね、実践につなげる。 ○日々の授業で、他者との関わりによって自分の考えがより明確になった、自分の考えが広がったなどの体験を積み重ねていけるよう、意図的に協働的な学びの場を設定する。学習での児童の変容を把握できるように、児童一人ひとりのふりかえりを大切にする。 ○指導案検討や授業研究会を中心に、「よりよいものにしていくために再考する力」を育むために、どのように協働的な学びを位置づけるかを研究し、日々の授業で実践を重ね、授業改善につなげる。
下半期	○日々の授業の中で、協働的な学びによって自分の考えがより明確になった、自分の考えが広がったなど肯定的にとらえている意見を価値づけ、取り入れようとする態度を養う。 ○指導案検討や授業研究会を中心に、協働的な学びを効果的に位置付けられる場面について研究し、日々の授業で実践して授業改善につなげる。 ○国語科に限らず、他教科・領域でも意図的に協働的な学びを設定する。児童が協働的な学びによって他者の考えを受け止め、再考して自分の考えをより良いものにしていく意識を高められるような授業づくりをする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	(1) ペア活動・たてわり活動・6年生による1年生サポート等での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育てる。 (2) 音楽活動や学校行事等を通じて、友達と同じ目標に向かうよさを実感できるようにする。 (3) 子どもたちがお互いに個性を認め合える居心地のよい学級・学校となるよう、全職員で対応していく。 (4) まわりとのかかわりの中で、自分の行動を顧みて相手の気持ちを察する力を育むようにする。
担当	人権部、児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況
(令和7年度 児童学校評価アンケートより) 項目7 たてわり・ペア活動では、ペアの友だちが安心して楽しめるように、レクの流れや役割分担を考え、仲間と協力して取り組んでいます。 A 60% B 30% C 8% D 2% 項目8 いろいろな活動に、自分ができることを意識して取り組んでいます。(委員会活動・クラブ活動・係活動・校外学習・運動会など) A 60% B 33% C 5% D 1% 項目11 困ったときや悩んだときに相談できる人がいます。(家族・先生・友達・カウンセラー・習い事の先生・電話相談など) A 64% B 25% C 8% D 3% ○項目7.8では、令和6年度と同様にABが高い結果となっている。これは、友達と意見を交わしながら認め合ったりできているからだと考えられる。また、学校行事や体験的な活動を通して、共通の目標に向かって高め合うことのよさを実感できているからだと考えられる。 ○項目11が高い結果となっていることから、身近な人に相談できる児童は多いと考えられる。今年度も、人とのコミュニケーションの機会を多くもちながら、自分も友達も大切にできる児童を育てていきたいと考える。

今年度の目標
自分もみんなも大切にしながらつながろうとする思いをもち、まわりとのかかわりの中で、自分の行動を顧みて相手の気持ちを察したり思いやったりする心を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○年度初めの環境になじみ、緩やかに学校生活を送ることができるようなスタートプログラムの趣旨を共通理解し、つながりを感じることができ横浜プログラム(YP)から取り組む。 ○日常の読書や歌、栽培活動等を通して、感性の土台づくりを行う。 ○道徳の授業では、道徳的価値を基に自己を見つめ、友達の考えもきいて再考できるようにする。 ○横浜こども会議の取組に向けて、児童の委員会活動とつなげることで、子どもたちが主体的に取り組めるようにする。 ○YPアセスメント1回目の実施と社会スキルの設定をする。 ○年間を見通した社会スキルの設定を行い、学年で組織的に取り組む。 ○学校生活についてのアンケートを行い、1回目の子どもとの教育相談を実施することで、より細かく様子を見とる。 ○人権研修を設定し、教職員の人権意識を高める。 ○たてわり活動で、異学年交流の意義やかかわり合うよさを感じさせる。 ○学援隊の方々を全校児童に紹介し、感謝の気持ちや地域への愛着を高める。 ○いじめをなくし、自分もみんなも大切にできる学校にするためにはどうしたらよいか、子ども達の意見をきく。
下半期	○横浜こども会議の取組の中間点で振り返る。改善や修正案を全校児童に投げかけていく。 ○YPアセスメント2回目の実施をする。教職員は、個人プロフィール票を活用して児童理解を深め、支援に生かす。 ○児童生徒交流会で小学校と中学校の子どもたちがかわり合い、そのよさを感じさせる。 ○運動会、音楽集会に向けて、学年等で子どもたちが同じ目標に向かって取り組むよさを感じさせ、「ひびきあい」を実感できるようにさせる。 ○人権週間を設定し、日常のテーマに即した切実感のある話題から、人権意識を高める。 ○全市一斉の学校生活についてのアンケートを実施し、2回目の子どもとの教育相談を実施することで、子どもたちの様子や変化、成長を見とる。 ○学援隊の方など、地域の方への感謝の気持ちを伝える活動を設定する。 ○いじめをなくし、自分もみんなも大切にできる学校にするために、子ども達の考えを取り入れた活動を実践する。 ○必要に応じて横浜プログラム(YP)を実施することで、学級のよりよい雰囲気づくりをおこなう。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	(1) 元氣アップタイムや学校保健委員会の取り組みを通し、健康を守ることに興味をもつことできるようにする。家庭と連携し、運動、食育や心の健康に取り組んでいく。 (2) 一人ひとりが体力・運動能力調査の分析に基づいて、体育学習に取り組んだり、運動習慣を改善したりできるようにする。 (3) 子ども主体で計画された運動集会を定期的に行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。
担当	健康食育部

健やかな体に関わる本校の状況
令和7年度 男子 令和7年度 女子 ○体力や生活実態については、学年ごとにばらつきが見られるが、どの学年も平均程度が平均を上回っている。 ○睡眠時間や朝食はどの学年もきちんと摂れている児童が多い。 ○けがでの保健室利用が多い学年がある。 ○不登校傾向の児童が多く、保健室等で気持ちを落ち着かせたり切り替えたりする児童が増えてきている。

今年度の目標
よりよい生活習慣の重要性や運動習慣の必要性についてより理解を深め、実践しようとする態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○食事を大切にする意識を高めるため、給食を「生きた教材」として扱い、ばくばくだりなどを通して食品の種類や特徴、栄養バランスのとれた食事などについて指導する。 ○自らの健康課題に気づけるよう、月ごとに異なるテーマを設定した健康教育「元氣アップタイム」を実施する。 ○「心の健康」をテーマにし、アサーションやリフレーミングを学校保健委員会で実施する。 ○新体力テストの過去の記録をもとにし、児童自身が結果を比較することで自分の体力や健康へ意識を向ける。 ○室外、室内でできる「体づくり」を学級などで、子どもの考えを取り入れて、継続的に体を動かす時間を設ける。
下半期	○自己の健康に対する意識や健康的な生活を送ろうとする態度を育てるため、元氣アップタイムや学校保健委員会等で学習した内容を日々の生活や給食時間の指導に取り入れ、年間を通し繰り返し呼びかける。 ○子どもたちが主体的に取り組めるよう、児童委員会による発信等の活動を取り入れる。 ○運動委員会を中心にした活動への取組を行い、体力の向上に努める。 ○室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。 ○全校児童で長縄に取り組み、健康・体力の向上を図る。